

平成22年度アマノリ養殖概況

加藤慎治

育苗については例年同様に10月下旬から11初旬に開始された。育苗中の海水温は平年に比べて低めで推移しノリ芽にとっては好適であったが、多くの海域で大型珪藻のコスシノディスカスが多数出現したため、栄養塩は著しく低濃度であった。県南漁場を中心に低栄養塩により育苗中のノリ芽について色落ちが発生したが、11月中旬にはコスシノディスカスの減少とともに栄養塩が増加し色調の回復が見られた。

本養殖開始以降の海水温は平年より低めで推移し、年内は葉体の色調が良好であったが、1月中旬以降海域で珪藻

が増加したため2月中旬に掛けて全域で色落ちが発生した。3月以降は低レベルながら栄養塩の回復が見られ、吉野川河口域の漁場を中心にまとまった生産となったが、県南漁場では引き続き色の浅い製品が目立った。

図1に平成22年度、21年度の月別徳島県漁連共販枚数を、図2に年度別共販枚数と平均単価の推移を示した。漁期前半は生産量が伸び悩んだが、後半は栄養塩の回復とともに生産量も回復し、漁期全体の共販枚数は昨年度比100%となった。また平均単価は色落ちによる等級低下を反映して昨年をやや下回る水準であった。

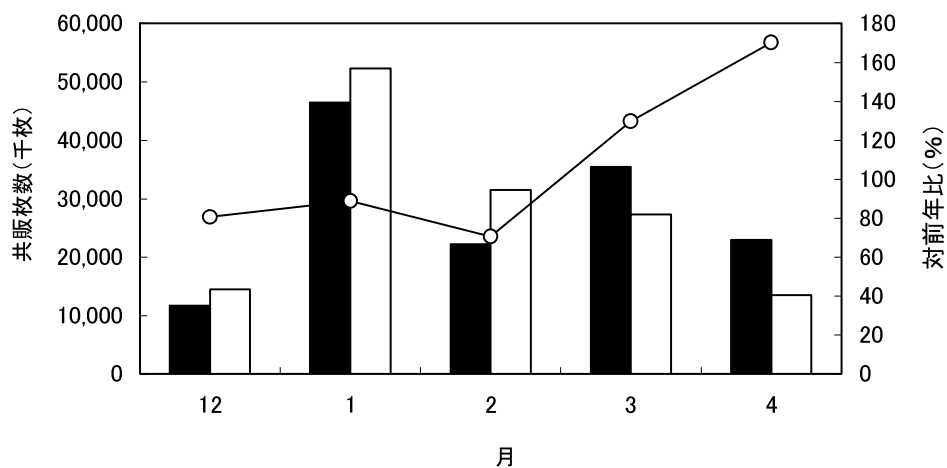


図1. 月別共販枚数の推移。■, 平成22年度；□, 平成21年度；○, 対前年比

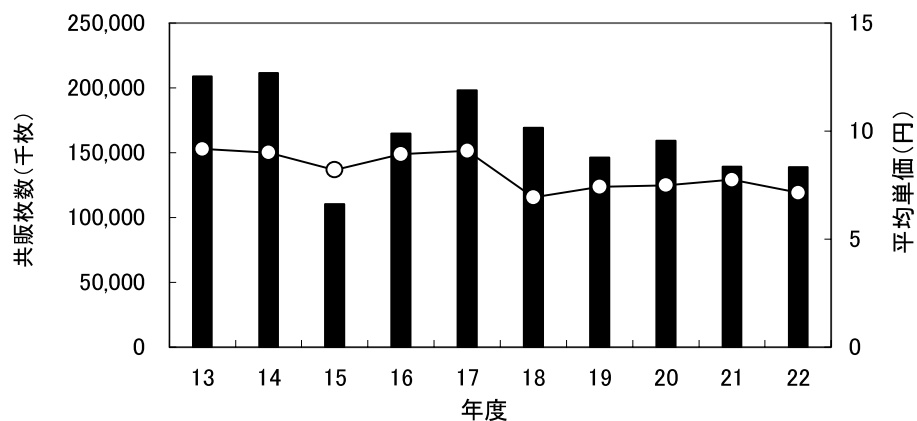


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。■, 共販枚数；○, 平均単価